

ついであいご



松前町長
白石勝也

松前町の皆さん、あけましておめでとうございます。輝かしい新年をお迎えのことと存じます。

私にとりましては、3期目の町政スタートの年であり、改めて責任の重さを感じています。これからも皆さんの期待に応えるべく、精一杯明るい町政の推進に努めたいと決意を新たにしているところです。

今、世の中は予想以上に高齢社会が進み、福祉、介護、医療、保健といった施策の充実が国、地方を問わず大きな課題となっております。そこで私は3期目の町政の柱の一つとして、高齢者を中心とする住民の皆さんの健康の保持、増進に取り組みたいと思います。と言つても、健康状態は人それぞれ違う訳ですから、基本的には個人個人が各々の体調、体力に合わせて、どうすれば健康を保てるか自ら取り組むことが第一です。健康で長寿を全うできる体制を考えて参りたいと思います。

健康で長寿を全うできる体制を考えて参りたいと思います。健康で長寿を全うできる環境を作ることが、これからの地域社会にとって大事なことです。次に重要な施策は、予想される大地震への備えです。これも大事なことは、自分の命は自分で守るという気持ちを持ち、住民の皆さんが、我が家の防災対策を立てることです。その上、隣近所、地域が自主防災組織を作り、日常的なお付き合い、情報交換の中で、いざという時に助け合いがスムーズにできるようにすることです。そして、町としては小中学校など皆さんの避難場所となる公共施設の耐震強化を計画的に実施していきたいと思っています。備えることの大切さは地震国日本では、今も昔も変わりません。

平成の大合併を経て今日の基礎自治体（市町村）は10年前のほぼ半分になりました。国、地方の格差が問題になってきているものの、財政状況が厳しいのはどこも同じです。松前町も厳しい行財政改革を行い、危機的な状況は脱しましたが、まだ楽観はできません。しかし、私は、これからは飛躍に向けた攻めの町政を推進したいと思っています。

そのためには、行政の役割、議会の役割、そして住民の役割などそれぞれの立場に立って、自らが今何をすべきかを考え実行することが大切だと思います。

信州伊那谷で独居生活をしている英文学者の加島祥造さんは、その詩集「求めない」の中で次のように書いています。

「求めない」と言つても、人間は求める存在である。でもこの「求めない」は求めないですむことは求めないという事なんだ。じゃあ求めないとうなる。簡素な暮らしになる、案外生きていける、求めなくても平気だと知る……。」と。

物があふれ、欲しいものが簡単に手に入る現代社会。人はがまんを忘れ、物を手に入れる、手に入れようという欲望のためなら平気で人を殺す……そんな殺伐とした現代社会への、ごく当たり前の、しかし鋭い指摘だと思います。

松前町を飛躍させるためには、何をおいても住民の皆さんの、町を良くしようという気持ちが一番です。私は3期目もその先頭に立って努力して参ります。そして、誰もが住んでよかった、住みたいと思つてくれるような、そんなライフタウンを目指していきたいと思っています。この一年が皆さんにとって素晴らしい毎日でありますように。

謹んで

新年のお慶びを

申し上げます

副町長

栗田 哲志

教育長

永見 修一

